

## 養護教諭部会活動紹介

塚越 潤

### 1 部会の構成・運営とおもな活動

本部会は、「国立大学附属学校園に在籍する養護教諭の資質向上を図るとともに、全国的視野に立って、子どもの生涯を展望した学校保健の充実・発展に寄与する」ことを目的に、1962年(昭和41年)に発足しました。当時は「全国国立大学附属学校養護教員研究会」という名称でした。現在の会員数は、各附属学校の統廃合などを経て、全国で259名となっています。

例年8月には、全国国立大学附属学校連盟養護教諭部会との共催で、研究協議会並びに総会を開催し、全国から120名以上の参加を得ています。北海道、東北、関東、北信越、東海、近畿、中国、四国、九州の9地区に分かれ、地区ごとにも研究会を開催しています。

本部会は、全国組織であること、会員が全員現職の養護教諭であること、勤務校園が全校種にわたることを特徴とし、子供の育ちをバーティカル、ホリゾンタル両軸で把握し研究することができることが大きいメリットであると考えています。学校教育を支える学校保健の推進、養護教諭の専門性の向上、子供の現代的な健康課題などをテーマに、3年から5年の研究計画を立て、継続的に研究を行っています。研究協議会では、会員個人もしくは団体(附属学校園の連携研究が多数)の研究を口頭で3題発表しています。加えて、プロジェクト研究として、大会参加者がその場で参加し、研鑽と研究を兼ねることのできる取り組みを企画し、好評をいただいています。また、毎年発行している研究集録(現在、第60集まで刊行)では、上記の成果とともに、各地区から研究4題を募り、誌上に掲載しています。

### 2 2025年度の活動

昨年度、本部会60周年の記念の年を迎えました。8月7日と8日には研究協議会並びに総会を周年行事と合わせて実施し、筑波大学附属学校の養護教諭の皆様を事務局として60周年大会(東京大会)を、一橋講堂で開催いたしました。154名の会員が参加し研鑽を積みました。

主 題	「人間性豊かで心身ともにたくましい子どもの育成をめざして」
期 間	2025年8月7日(木)～8日(金)
会 場	一橋大学 一橋講堂 <a href="https://www.hit-u.ac.jp/hall/">https://www.hit-u.ac.jp/hall/</a> 〒101-8439 東京都千代田区一ツ橋 2-1-2 学術総合センター ☎ 03-4212-3900
主 催	日本教育大学協会養護教諭部会 全国国立大学附属学校連盟養護教諭部会
後 援	文部科学省 日本教育大学協会 全国国立大学附属学校連盟

#### 文部科学省基調講演

講 師	文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課健康教育調査官(8月当時)	川畑 千種 様
演 題	「これからの学校保健と養護教諭の職務について」	

#### 特別講演

講 師	筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構(WPI-IIIS)機構長 株式会社 S'UIMIN 代表取締役社長	柳沢 正史 様
-----	---	---------

演 題 「睡眠の謎に挑む～基礎研究から睡眠ウェルネスへ～」

60周年特別企画 分科会

講 師 独立行政法人 国立病院機構久里浜医療センター 内視鏡部長  
水上 健(みずかみ たけし)様

分科会1 「目で見える過敏性腸症候群と便秘 -対策は「体質」との付き合い方-」

講 師 千葉大学大学 医学研究院地域医療教育学 特任准教授 千葉大学医学部附属病院  
鋪野 紀好(しきの きよし)様

分科会2 「保健室で役立つ診断推論とフィジカルアセスメントを実践しよう」

講 師 筑波大学 人間系 筑波大学附属学校教育局 教授  
飯田 順子(いいだ じゅんこ)様

分科会3 「学校におけるポジティブ心理学とメンタルヘルスクリーニング」

研究発表

- (1)広島大学附属幼稚園(三原園舎) 大林 由希実  
「幼稚園から始める健康な身体づくり -おやつで取り組む食育-」
- (2)大阪教育大学附属平野小学校 板倉 こなみ 同附属高等学校平野校舎 勝賀瀬 慶子  
「保健室内科記録シートの活用と情報共有の実践について」
- (3)長崎大学教育学部附属幼稚園 森山千穂 同附属中学校 寺井由紀江  
「自分の健康を自分で守る子どもを育てるために -歯と口の健康に焦点をあてた取組-」

指導助言 創価大学大学院 教職研究科 教授 相樂 直子(さがら なおこ)様

研究プロジェクト

2023年・2024年の2年間、「子どもの育ちを支えるICTを目指して -養護教諭の視点から-」をテーマに、校種横断的に子どもの健康課題とICT活用の実態を調査し研究を進めました。これらの成果をもとに、今後取り組みたいテーマについて、大会当日は、その場で様々なICTツールを活用して意見交換しました。大会後のアンケートでは、ICT利用に関して積極的な気持ちになれた、できることが広がったと感じる、など、職務モチベーションが上がった様子が見えました。

総会

- ・2024年度決算並びに2025年度予算審議
- ・2024年度活動報告並びに2025年度活動計画審議

### 3 今後の展望

2019年から2023年の新型コロナウイルス感染症の流行期間中、大会をwebでの活動に変えたり、オンラインで開催したりと、部会の運営が止まることのないように努めてきました。期間中は感染対策にも忙殺され、養護教諭は皆が必死で職務を全うしてきたと思います。その甲斐あって、会員の「ふたたび対面で大会を持ちたい」という気持ちが追い風となって2025年度の60周年東京大会開催に結びついたと感じています。

一人職と言われる養護教諭は、それぞれの場で連帯や連携、共有を常に求めています。そうしたニーズに応じ、かつ現職の養護教諭による研究と研鑽の場として、本部会は活動していきたいと考えています。

もうひとつのご報告は、2025年度から研究集録をデジタル化したことです。オンラインでの検索に対応すること、保存や配布の利便性、省資源などを考慮した結果です。養護教諭部会は次の10年に向けて変革しつつけてまいります。

日本教育大学協会並びに関係各所におかれましては、引き続きのご支援ご鞭撻を心よりお願い申し上げます。

(東京学芸大学附属竹早中学校 養護教諭)